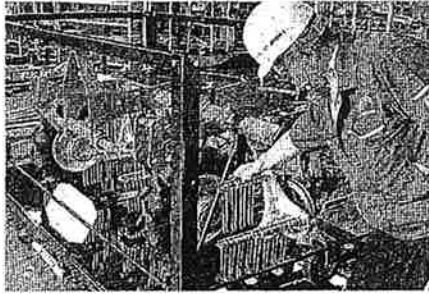


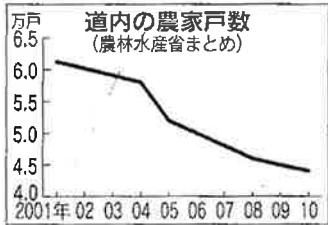
# 道内5社、独国際展示会に出展

# 農機の海外販路を開拓



東洋農機は除草機を国際展示会に出展する

東洋農機(帯広市)、エフ・イー(旭川市)など道内の農業機械メーカー5社は、海外販路の開拓に本格的に乗り出す。ドイツで今秋開かれる国際展示会に畑作・野菜用機械を共同出展し、高精度で小回りが利くなど道内で培った技術売り込む。高齢化や後継者不足により道内の農家戸数が減少するなか、ブランドの知名度を上げることで、欧州やアジア進出の足掛かりにする。



## 高精度・小回りに強み 知名度向上へ

アグリテクニカに共同出展する道内メーカー

サンエイ工業	ジャガイモの収穫機
オサダ農機	自走式ニンジン収穫機
アトム農機	油圧バケット
エフ・イー	ジャガイモなど皮むき機
東洋農機	株と株の間の除草機

サンエイ工業(斜里町)、オサダ農機(富良野市)、アトム農機(美瑛町)などの5社は、11月13〜19日に独ハノーバーで開かれる国際展示会「アグリテクニカ」に共同で出展する。北海道農業機械工業会によると、

「アグリテクニカ」に共同で出展する。北海道農業機械工業会によると、サンエイ工業はジャガイモ収穫用の小型機械、オサダ農機は自走式のニンジン収穫機、またアトム農機は収穫物を水平に積んで持ち上げられる油圧バケットをそれぞれ出展する。価格は70万円程度から1千万円を超える製品もある。

まず国際展示会への出展で、それぞれの農機メーカーのブランド浸透を目指すほか、欧州の農機市場を調査し、販路開拓の可能性を探る。さらに市場進出に欠かせない販売拠点、製品のメンテナンス態勢をどう築くかも併せて検討していく。

サンエイ工業は2009年に単独で「アグリテクニカ」に出展し、欧州企業との契約にもつながった。エフ・イーは台湾や韓国に製品を輸出するなど、欧州やアジアでの市場開拓に力を入れる動きが広がっている。

農機メーカーが海外進出を目指す背景には、販売先の農家の戸数減少がある。高齢化や後継者不足などにより離農が進み、道内の農家戸数は1985年に10万戸あったが、10年は4万4千戸にまで減った。また価格が高でも、高性能を武器に欧州の農機メーカーが道内の農家向けに販売を強化している。5社は北海道経済産業局の補助金を活用し、2年後をメドに海外への本格進出を目指す。

2年に1度開催され、農機メーカーなど2千社を超える企業が新製品、先端技術を示す。期間中には欧州をはじめ、インドやブラジルなど世界各地から農業関係者が34万〜35万人来場するとい

5社は、いずれも畑作が盛んな地帯にある企業。精度が高く、小回りが利くなどの特徴を持つ農機を「ジャパン・パビリオン」に展示する。サンエイ工業は2009年に単独で「アグリテクニカ」に出展し、欧州

企業との契約にもつながった。エフ・イーは台湾や韓国に製品を輸出するなど、欧州やアジアでの市場開拓に力を入れる動きが広がっている。

農機メーカーが海外進出を目指す背景には、販売先の農家の戸数減少がある。高齢化や後継者不足などにより離農が進み、道内の農家戸数は1985年に10万戸あったが、10年は4万4千戸にまで減った。また価格が高でも、高性能を武器に欧州の農機メーカーが道内の農家向けに販売を強化している。5社は北海道経済産業局の補助金を活用し、2年後をメドに海外への本格進出を目指す。